

## 丘の上のチャリティー茶会に参加して (2017年10月21日)

春日部福音自由教会 安藤博

去る10月21日、丘の上チャリティー茶会にしばらくぶりに参加しました。確か第1回目と第2回目に参加して以来だと思います。

最近、中学校の時の恩師を訪問した時にお茶を振る舞ってくれました。よく聞いてみると茶道を習っていたとのことでした。そこで丘の上のお茶会に招待しました。

恩師の都合で午後からの参加となりました。教会に到着すると、受け付け周辺は人でごった返していました。礼拝堂では音楽会が行われていましたが、途中からは入ることができず、とりあえずストーブの脇を通過して階下の和室に入ってみました。やはり、待っている人でいっぱいでした。そこでは和服で着飾った若い女性の方から声をかけられました。なんと母がデイサービスでお世話になっている職員の方でした。世間は狭いものです。

しばらくすると音楽会が終わり、次に礼拝堂で漆についての講演を聞くことができました。この講演で、明治時代に入ってから漆製品が日本の外貨獲得のため

の重要な輸出製品であることを知りました。講演者が作られた漆製品も拝見することができました。

その後、小間の茶室に入ることができ、お濃茶の直し飲みを体験することができました。恩師から、あなたは作法よく知らないの一番上座には座らないようにと忠告を受けました。また、広間の最後の席に座ることができました。

恩師は、こんな本格的な茶会の席だと分かっていたら、ふくさや扇子など持ってくれば良かったと言っていました。しばらくぶりですと楽しい時を過ごすことができました。



### 協力会活動報告

1月宣教協力会ニュース第7号を発行  
高橋師への支援献金のお祝い  
役員会の開催

高橋敏夫主幹伝道者の奉仕教会  
2月洛西教会(京都セミナー)  
8月気仙沼聖書バプテスト教会  
9月上田福音自由教会

その他の活動  
10月軽井沢恵みシャレー主催「茶道とキリスト教」セミナー  
6・11月春日部市民文化講座講演  
10月第20回丘の上チャリティー茶会席主

### サポートのお願い

当協力会は、本会の趣旨に賛同する方々の祈りと献金によって支えられ、運営されております。ご支援いただけます方は、同封の振込用紙、または専用の封筒をご利用くださり、お助けいただきたく存じます。

日本文化宣教協力会事務局  
〒344-0067

埼玉県春日部市中央1-5 1-7

春日部福音自由教会内

Tel 048-735-4765/Fax 048-735-4726

Eメール y-gospel@jcom.zaq.ne.jp

郵便振替

ゆうちょ銀行春日部店

口座番号 00140-9-394018

加入者名 日本文化宣教協力会

### 日本文化宣教協力会 会計報告

自 2017年4月1日 ~ 至 2017年10月31日

収入の部		支出の部	
前年度繰越残高	36,526円	講師謝礼	140,000円
献金	713,080円	活動費	59,350円
受取利息	1円	駐車場費	328,320円
借入金	120,960円	車両費	196,382円
		通信費	2,160円
		経費・消耗品	45,380円
<b>合計</b>	<b>870,567円</b>	<b>合計</b>	<b>771,592円</b>
		残高	98,975円

日本文化宣教協力会ニュースを、今後はEメールにてお届けしたいと考えています。メールでの配信を希望される方は、協力会事務局までお知らせください。

### 編集後記

日本文化宣教協力会のために、お祈りとご支援をいただき、心から感謝いたします。

今年は、高山右近の列福式、そして宗教改革500年を記念した様々な行事が行われたことは、キリスト教会を超えた大きな出来事であったと思います。その中心にあるのは、かつてのような分裂や対決ではなく、今は、協力や和解ということでありましょう。昨年京都ツアーにも参加された、スムットニー祐美さんが書かれた「茶の湯とイエズス会宣教師—中世の異文化交流」にある、宣教師ヴァリニャーノの取った適合主義の21世紀版が必要なのではないかと思えます。現代の日本には、日本人だけでなく、いろいろな国の人たちが移り住み、実に多くの海外の旅行者が訪れています。春日部には、神社仏閣だけでなく、モスクも建っています。変わることはない福音を、この国にいる多様な人たちの心に届くよう伝え、表現したいと強く思われた一年でした。新しい年も、主にあって宣教に携わる年であるように。これからも、よろしくお祈りいたします。山田豊

# 日本文化宣教協力会 ニュース

発行: 日本文化宣教協力会事務局  
2017年12月17日発行 第8号

Vol.8



## 巻頭言

日本文化宣教協力会

主幹伝道者 高橋敏夫

ジェームス・フーストン(94歳)は7年前、私に新しい灯をともしてくれた。それは、新しい宗教改革の祈りである。日本列島に存在しているあらゆる教会が、せめて復活祭礼拝をこぞってささげる事が出来たらと願う。

宮城県の、気仙沼のバプテスト教会からの要請で、毎年私たちの教会は奉仕をさせていただいている。あ

る年、仙台藩の家老の「煙雲館」で講演会を行った。大広間いっぱいの聴衆があった。まさに日本文化を象徴する重要文化財にもなっている建物で福音を語らせていただくことができた。

今年は大船渡教会と共にカメラアホールで講演会を行うことが出来た。大船渡は津波で海寄りの家々はすっかり水に浸かり流されてしまった地域である。大船渡の表千家社中の方々が、参加者40名でお茶とお菓子を振る舞うお手伝いをしていただいた。日本文化の核のように覚えられている千利休の侘び茶と、福音の接点を説き明かしてイエス・キリストの福音が多くの人々に届くようにとの願いから行われている。

超教派のJTJ神学校での集中講義では、今年すでに卒業している方々も受講されていた。

日本文化協力会の設立と共に、カトリック教会からもセミナー、講演会の招きを頂き、四ツ谷駅前の日比谷ホールでは定期的に福音と茶の湯のセミナーが続けられてきた。

軽井沢恵みシャレーのセミナー「茶道とキリスト教」は、参加者は決して多くはないが、一泊二日の研修によって福音が参加者の心に深く届いていることを実感している。

春日部市民文化講座は、春日部の文化を育む人々と共に協力して私の講演会が続けられている。

この夏、城下町の上田福音自由教会で伝道礼拝と文



煙雲館にて

化講座の奉仕をさせていただいたとき、礼拝堂の中央に教会の方が自ら摘んでこられた山草をみごとに活けておられて、茶の湯に通ずる美しさを覚えさせていただき、上田には城下町にふさわしい品格のあるお菓子もいただく事ができた。

丘の上チャリティー茶会は20回目を迎え、盛会であった。一回も休むこ

となくおいでくださった方もおられた。丘の上が、日本文化宣教の働きを実践していると言えよう。

2017年10月でルターによる宗教改革500年記念を迎えた。福音派は新改訳聖書を新しく出版し、宗教改革の意味を反芻する年としている。

私の祈りは、戦後福音派が分離、分裂を繰り返した姿勢を改め、イエス・キリストの体である教会はひとつであるという、命のある認識が諸教会に覚えられるようにと祈らざるを得ない。

日本文化を知らずして日本人に福音宣教は届かないのではないかと教えてくださったのは、日本教会史をまとめて下さった柳田友信先生である。